

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和4年12月

法人名	園名
社会福祉法人 照治福祉会	阿武山たつの子認定こども園

まとめ 全体平均 4.25

第2章第2節 乳児期の園児の保育	集団生活なのでずっと一人だけというわけにはいかず、欲求を十分に満たしてあげられない時もある。時間差をつけて戸外で過ごしたり、マットスペースを儲けて体を動かせるようにしたりして、それぞれの発育に応じた体の動きを十分にできるよう工夫している。他の子どもの泣き声でよく眠れず睡眠が満たされない時もあるが、担当制保育の中、一人一人の欲求が満たされるように関わっている。食べやすいように食材の大きさを変えるなどして子どもの噛む力に合わせている。子どもが眠りやすいようにコットの場所を変えるなどして工夫している。服が汚れていたりオムツが濡れていたりしたらその都度変え、清潔に保てるようにしている。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子ども一人ひとりの気持ちを受容し、集団生活でのリズムが形成されるよう努めている。自我が芽生え自分で意欲的にしようとする姿もあるので、少人数で援助するように心掛けながら、一人ひとりの様子や気持ちに寄り添い臨機応変に関わるようにしている。安全で活動しやすい環境を整え、子どもが興味を持つ玩具や絵本から、物の名前や色、形を伝えたり、戸外遊びによって生き物と触れ合ったり季節を感じたり出来るようにしている。感触遊びやダンス、歌を歌うなどのあそびを通して子どもの好きな物が増え、「〇〇したい!」と自分の気持ちを表現する事が出来るようになってきている。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	担任同士で話し合い、今の子どもたちにとって最善の方法を常々考えている。言葉で気持ちを伝えることが難しい子には「気持ちカード」を用意し、自分の気持ちを安心して表現できるように配慮している。健康面に関しては、家庭との連携が必須であり、時間を見つけて家庭での様子を聞くように努めている。オリンピックやワールドカップがあったことで世界の国々への興味を持つことは出来たが、国旗に限定するとそこまで興味を持たかどうかは分からない。行事で経験できた事柄を日々の保育にもっと生かせるようになれば、もっと経験が豊かになるのではないかと感じた。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	事故防止に努めながら、常に活動しやすい環境を整え、安心して伸び伸びと生活できるようにしている。子どもの様子を見守り、体調に変化がある時は看護師に相談し、迅速に対応するよう努めている。担当制保育を行う事で、個々の様子の変化には比較的気づきやすいと感じる。当降園時に園での様子を毎日伝えたり、質問されたときには丁寧に対応するようにしている。また伝達事項などについて、クラス内でこまめに情報交換し把握するよう努めている。子どもが自分でしてみようとする姿を危険の無い限り見守るようにし、子どもの実体験を大切にしている。
第3章 健康及び安全	「衛生検討委員会」と「防災安全検討委員会」が中心となり、園内の感染症対策や防災対策を行っている。室内の玩具や保育室の消毒は勿論の事、一人でも感染症が発生した場合には掲示をして保護者にも周知し、感染症の拡がりを抑えるよう努めている。日々の保育の中で食に関する絵本を読んだり、実際に旬の食材に触れる機会を作ったりして、子どもたちが食に興味を持てるよう配慮している。園内の災害対策については精一杯行っているが、「地域と連携して」という部分については、コロナ禍で後退してしまった部分もあるので、今後更に進めていきたいと考えている。
第4章 子育ての支援	一時保育を受け入れ、土曜日にも園庭開放をするなど、保護者の心身の負担に配慮している。年間に2度の個人懇談クラス懇談を行う他に、保育参加を受け入れている。保育参加では、園の保育内容への理解を深めるだけでなく、園での保育者の対応（言葉の掛け方や友だちとの仲介の仕方など）を保護者が間近で見ると、子育ての参考にされている。クラス懇談では少人数で会話できるよう工夫することでより会話が弾み、保護者同士の親睦も深まったように感じた。保護者の悩みにどこまで寄り添い解決策へと導けるか分からないが、寄り添い一緒に歩いていく姿勢を大切にしていきたい。
第5章 職員の資質向上	研修の案内を掲示しても、興味を示して積極的に参加する職員は限られている。職域、職位に関する研修は対象者が限られているため事務所から声をかけることが多い。個人の専門性を高めるという意味でも積極的に参加できるような取り組みも必要なのかもしれない。個人の研修としては、キャリアアップ研修に積極的に参加できるよう、研修費用を園が負担して受講できるようにしている。外部研修よりは大勢参加が可能な園内研修に重点を置き、講師を招いてのわらべうた研修や「タネプロ」（気づきのタネを子どもが育てる環境づくりプロジェクト）と称した園内研修会を年間を通して行っている。
総合	子どもが自ら考え行動できるようにするにはどのような保育を展開していけば良いのか? 「考える子ども」を育てるには、保育者がまず「考える保育者」でなければならない。「正解は無い」「答えを言わない」我慢我慢の保育を続けてきたことで、少しずつ「考える事の出来る保育者と子ども」が育ってきていると感じる。これからも「あそび」を通して様々な体験をしながら、「面白い」「楽しい」「ふしぎ!」など、心が震える体験が出来るよう様々な仕掛けを取り入れ、援助し、楽しみながら保育が展開できるように心掛けていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	84	4.48
「3歳未満児保育」	363	4.12
「3歳以上児保育」	476	4.20
「教育保育の配慮事項」	180	4.28
「健康・安全」	1001	4.32
「子育ての支援」	385	4.25
「職員の資質向上」	157	4.10
計	2646	4.25

データグラフ

